

学力向上に効果のある取組事例

臼杵市立下北小

①基礎的・基本的な知識及び技能の習得

取組の具体①

○子ども主体のなかよし班学習の実施。

週に1回、異学年で学び合う時間を確保。子どもたちの希望から、算数を実施。

(児童の思い)

算数の九九を覚えていないと高学年になって困るから低学年のころからしっかりと覚えていてほしい。

(方法)

①あいさつ⇒②なかよし班ファイル配布⇒③九九の歌を歌う。④5分間自分の学習⇒⑤お互いに丸付けしたり、早く終わったら復習問題を出したりする学び合いタイム⇒⑥ファイル回収後、あいさつ。

・学期ごとに6年生がアンケートを全校にとり、感想を聞き改善を行う。昨年度末の結果、最初に全員で九九の歌を歌うように改善。

(児童会による全校児童のアンケート結果)

・「なかよし班学習の勉強がよくわかる」 肯定的評価 91%

・「なかよし班学習は楽しい」 肯定的評価 84%

<感想>

・漢字の学習もやってみたい。 ・九九をもっと覚えたい。

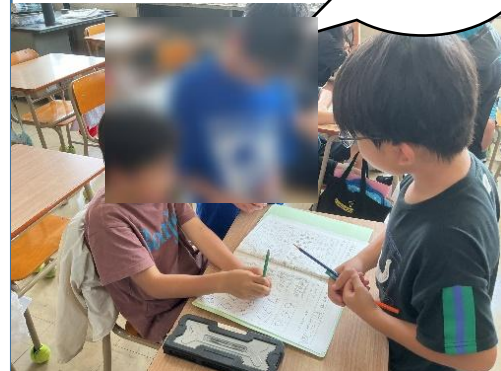
・もっといろんな教科もがんばりたい。

・算数がもっとできるようになりたい。教え合えてうれしい。

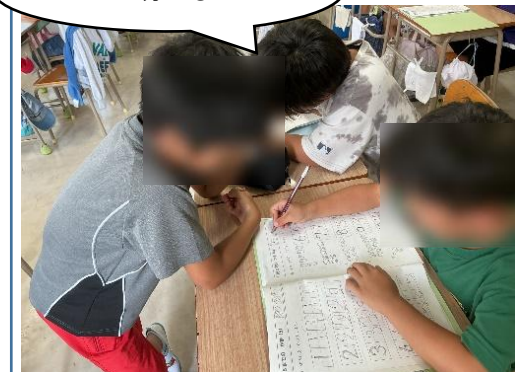
・もっとみんなで教え合えるようになるにはどうすればいいかな。(6年)

自然と高学年が低学年のそばへ。

できてるよ。すごい！



ここ分かる？



取組の具体②

○チーム担任制の実施。

単学級であるが、1・2年、3・4年、5・6年、特別支援をチームとして、交換授業、生徒指導事案への対応、担任業務の担当交代(給食等)を常時行う。

(子どもに期待できる効果)

単学級で、クラス替えもないため、より多くの大人が子どもに関わる機会を持つことが子どもにとって安心できる居場所確保につながる。また、より多くの教職員が関わることで、子どもの変化に気づくチャンスが増える。専門性を生かして授業実践を行うことができる。チームで互見授業をしたり、検証授業に向けてチームで模擬授業を行ったりすることで、教職員の授業力向上が見られる。また、教材研究の教科を絞ることで授業改善につながり、子どもたちの学力向上が期待できる。安定した学校生活基盤を構築していくことが学力向上に効果的だと考えている。



五、六年生で行事に
むけて集会



三年生の担任が、
四年生の算数授
業を行う。